

日々の授業の質を高める！ 見方を変える！ 形態を変える！



「はにゅうの子」を伸ばす教育 (教師版)



は：【教師の】発話量（説明）を減らしましょう！

授業中の発話がT（教師）-C（子ども）-T-C・・・と一問一答になっていませんか？

T（教師）-C（子ども）-T-Tと説明しすぎていませんか？教師の発話を極力減らし、子どもたち同士の意見がにつながる授業をつくりましょう。意見をつなげるためにはどのような「発問（問題提起）」が必要でしょうか？

に：日常生活とのつながりを重視しましょう！

学んだ事と日常生活の関係をつなげる授業を目指しましょう。日常生活の問題から授業に入ることもできます。子どもたちの興味・関心を高め、主体的な学びを促しましょう。

ゆ：行き先（授業のゴール）を見通した授業設計をしましょう！

教師として授業のねらいをしっかりと設定し、授業のゴールを明確にしながら、子どもたちに必要感と見通しをもたせて授業を行いましょう。

う：うまく意見（考え）を引き出し、対話を紡ぎましょう！

子どもの考えを見取りどのように発表させると効果的か戦略を練りましょう。（指導案の）予想される子どもの反応は実態に合っていますか？子どもの意見（考え）を引き出す「発問」や思考を深める「問い直し（切り返し発問）」を準備しておきましょう！

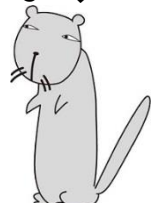
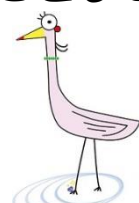
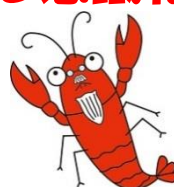
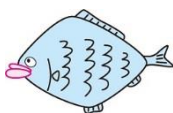
の：能力を伸ばす+の声かけを普段から意識しましょう！

（いい発見をした子）「〇〇さんの見方はおもしろいね。」「とてもいい考え方だね。」という見方・考え方を全体へ広げる声かけを意識しましょう！また、次へつながる一声も添えましょう。（例：〇〇さんなら他にも見つけることができそうだね）（例：いい考えだからみんなに教えてあげてよ）⇔（×だからできないんだよ）（×だめだなあ）

こ：子どもの言葉で授業の振り返りをしましょう！

授業のまとめと振り返りは同じではありません。クラス内のいろいろな意見から練り上げた全体の【まとめ】とまとめをふまえた個人の姿容のメタ認知が【ふりかえり】「なにができるようになったか」

個々の子どもたちに**授業前後の成長を意識化**させましょう！



児童・生徒の活動に関すること

- ・レディネステストを実施して、**児童の学習状況の把握**や**支援**を行う。
⇒現状を把握することが「**教師の授業改善**」や「**児童の学び**」のスタートラインとなる。
学びの3段階（わかったつもり）をゆさぶる

「（言葉が）わかった」⇒「（問題が）解ける」⇒「（仕組みが）教えられる」
を踏まえた学習指導の展開の工夫。

- ・**教師がねらいを明確にもち、その意識下での発問や切り返しを行う**
- ・**子どもたちがめあてを自覚し、目的意識をもって学習に取り組む**
⇒「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。
- ・授業規律の指導：授業の開始・終了を守る、次の学習の準備、「立腰」等、学習規律の徹底。
- ・家庭との連携を強化することを目的として「学力向上推進だより」を毎月発行。
⇒内容：全国学調の過去問や、自主学習ノートのポイント、学力向上に向けた情報等。
- ・家庭読書の日を、月1回設け、学校だけでなく家庭においても、本を読む環境を確保。
- ・ペアやグループとその人数を変えながら問題文の読み取りを行う導入段階、問題解決場面、まとめを自分たちで考えさせる終末段階など様々なタイミングで、話し合い活動を授業の中に数多く取り入れた。



教師の指導の工夫に関すること

- ・**興味・関心を引き出す導入の工夫**
⇒子どもたちが授業に主体的に取り組むか否かは、導入で「課題意識をどこまで引き出せたか」である。
- ・**意図的指名**により、**緊張感をもたせ、授業に集中**するようにさせた。
⇒メリハリをつけ、一定の緊張感をもたせるよう意識して授業を行うことを徹底。
⇒発問したことを複数指名して答えさせた。また、「同じです。」という言葉だけで終わらせず、必ず自分の言葉で答えさせるようにした。
- ・問題の解答の仕方を指導し、**インプットだけでなく、アウトプットを意識し、何が分かったのか、答えさせるようにした。**
- ・児童に**自分の思いを話させる機会を意図的に設けた。**
⇒例：ビブリオバトル、新聞記事からの自分の考えをグループで発表させるなど。
- ・**学校行事において、「実行委員制度」を取り入れている。**
⇒この制度により、教師の支援の下、児童が主体的に考える場を提供し、実践できるようにしている。授業実践だけでなく、学校行事や普段の学校生活の中でも主体的・対話的で深い学びの視点の手立てを取り入れる。
- ・授業で取り組んだ問題を**その日のうちに家庭でも取り組ませた。**
- ・授業の**振り返りを記述**させ、本時の授業を振り返る時間を確保した。
- ・**「言葉の宝箱」**：教科書に出てきた言葉やわからない言葉、気になる言葉（方言など）を分類して辞書のようなものを作り、ファイルに綴っている。6年間を見通し、語彙力を高めていく。



- ・特に**算数の単元によってT・Tと少人数指導を組み合わせて行う。**
上位層には発展的な問題を多く取り入れシェアタイムでよりよい解き方を追求する活動に力を入れ、低位層には分かるところから積みあげて「わかる・できる」喜びを味わわせたことが、学びに向かう力となった。
- ・**立式の根拠を説明、発表・比較する機会を多く確保。**
- ・**個人→ペア→グループ→全体と話し合い活動に変化を持たせた。**
⇒多様な意見を交わせるようにした。
- ・**前時の復習テストの実践**
⇒授業の導入の際に、前時で学習したことや関連する内容について「三題テスト」を作成し、基礎内容の習熟を図った。
- ・**段落構成を意識した授業展開。**
⇒段落の関係を押さえることで説明文を読み取る力がついてきた。汎用的な「読むポイント」ていねいに押さえたことで、違う説明文でも読み取る力がついたのではないのか。



教材・教具の工夫に関すること

- ・**「〇〇問題集」(全国学調の過去問・コバトン問題集・復習シート等)の活用。**
⇒一人一冊のファイルで所有し、書き込みではなく、繰り返し用の問題集として活用した。
- ・**A3サイズの発表ボード**(クリアハードケースに磁石をつけた自作のもの、一枚あたり数百円で作成)**を各クラスに配付**し、発表活動に活用した。
⇒既にワークシートと同じ図や表が入っており、ファイルの上から書き、何回も使える。
- ・**特別活動で活用する学級会グッズを作成し、全学級統一**をした。
⇒学年が進級しても戸惑いなく進んで学級会に参加することができている。また、教科等の板書で使う記号も統一している。
- ・3年生以上は**ドリルを統一し、同じ流れで取り組む。**
⇒3回以上取り組むことで、基礎・基本のより確実な定着を図る。
- ・**タブレットを使ったグループでの話し合いの推進。**
⇒授業の導入で、ビデオや写真を提示することにより、児童の興味・関心を持たせるようにした。また、発表会の時に児童がプレゼンを作り、積極的に発信できるようにした。



その他

- ・**全職員で学力を上げるという意識を高める。**
⇒授業改善や研修に一丸となって取り組んだ。
- ・**学力カルテを個人面談時に提示**
⇒保護者と成果や課題の共通理解を図ることができた。
- ・**一人一人が生き生きとめあてに向かえる学級作り**
⇒担任は、一人一人に目をかけ、よい変化を逃さずほめるような支援を心がけた。
- ・**「学校適応アセス」を全学級実施**
⇒一人一人の児童、学級の実態や課題を把握し、児童理解から学習への意欲の低い児童への支援とすることもできた。
- ・**高学年を学習サポーターとして活用**
⇒業間や昼休みに2年生のかけ算九九などを見てあげる時間を設けている。



児童・生徒の活動に関すること

- ・レディネステストを実施して、生徒の学習状況の把握や支援を行う。
⇒現状を把握することが「教師の授業改善」や「児童の学び」のスタートラインとなる。

学びの4段階（わかったつもり）をゆさぶる

「（言葉が）わかった」⇒「（問題が）解ける」⇒「（仕組みが）教えられる」
を踏まえた学習指導の展開の工夫。

- ・教師がねらいを明確にもち、その意識下での発問や切り返しを行う
- ・子どもたちがめあてを自覚し、目的意識をもって学習に取り組む
⇒「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。

○各教科にて

- ・全教科で、3～4人程度のグループ活動を実施。
- ・小学校の教科書を確認してから授業に臨み、小・中の連携を意識した、説明の展開。



国：統一の授業スタイル（課題設定→学びあい→ふり返し）で授業を行い、主体的・対話的で深い学びの実現を図った。

- ★1時間、1回以上の相談タイムを設けている。また、県学調や全国学調の結果を受け、「書くこと」を意識した発問の工夫や事前の学習課題の提示を行った。

数：問題演習の際、リトルティーチャー（生徒同士による教え合い活動）を活用。

- 年間を通じて、授業の開始5分間で小テスト（入試問題の計算や前時の復習）を行い、基礎・基本の定着につなげた。

英：「CANDOリスト」の活用や学期ごとに「リーディングテスト・スピーキングテスト」を実施することで、学力向上に努めた。問題文を時間で区切りながら音読練習をした。

教師の指導の工夫に関すること

- ・興味・関心を引き出す導入の工夫

⇒子どもたちが授業に主体的に取り組むか否かは、導入で「課題意識をどこまで引き出せたか」である。

- ・課題提示は問いかけ形式で行う。・日常との関連性を提示する。・具体物やICTを活用する。
- ・授業の構造化 ・帯学習（授業の最初に行う短い学習活動）の充実。

- ・授業のねらいを明確化、振り返る時間を設定。

⇒本時では何を学ぶのかを生徒に理解させる。

○全教科にて授業の流れ、学習課題（ねらい）の明示

- ・単元を見通した「問い」の設定。

- ・学習形態の工夫 ～学び合い、伝え合いの場面の設定～

⇒授業では必ず1回はペア、グループになって活動をする。

- ・実践的な場面の設定と学習課題の提示。⇒「実生活に結びついた学習課題を考え、提示。

- ・指導と評価の一体化 ・授業での活動は必ず、評価に反映。

⇒到達度テストやパフォーマンステストなど、様々な方法で、観点を明確にして評価する。

- ・意図的指名により、緊張感をもたせ、授業に集中するようにさせた。

⇒メリハリをつけ、一定の緊張感をもたせるよう意識して授業を行うことを徹底。

⇒発問したことを複数指名して答えさせた。また、「同じです。」という言葉だけで終わらせず、必



ず自分の言葉で答えさせるようにした。

- ・問題の解答の仕方を指導し、**インプットだけでなく、アウトプットを意識し、何が分かったのか、答えさせるようにした。**

国：授業開始5分間で漢字勉強タイムを実施することで、落ち着いた状態で授業を始められる。

数：話し合い活動を行うときに、**習熟度を考慮してグループ編成**をすることで、話し合いの質の向上や教え合いがスムーズにできる。「答え」だけでなく、「理由」を説明し合う時間を確保している。毎回授業にて演習プリントを準備し、それに合わせ、ノートの作り方（左：板書、右：プリント）を指導している。

英：ICTを活用することで、生徒の興味・関心を高めた。

補足プリント（Classroom English プリント）を準備し、英語の授業はできる限り英語で会話をする意識づけをした。

教材・教具の工夫に関すること



- ・**タブレットを使ったグループでの話し合いの推進。**

⇒授業の導入で、ビデオや写真を提示することにより、児童の興味・関心を持たせるようにした。また、発表会の時に 児童がプレゼンを作り、積極的に発信できるようにした。

- ・各教科における**授業のユニバーサルデザイン化。**

⇒全教室の左全面の壁に授業に関する掲示物を掲示。具体的には授業の流れを示す「授業スタンダード」と、話し合い活動「シェアタイム」のルール、「授業の約束」の掲示物。授業中のそれぞれの場面で、掲示物で確認しながら、授業を進めるようにしている。

- ・書画カメラ等を駆使して、**視覚に訴える教材提示。**

⇒ICT（タブレット、電子黒板等）を効果的に活用。・ねらい達成の手段となる教材作成。

国：ワークシートに**発展的な課題**を設けたことで、生徒の習熟度に応じた授業が実現。

数：各単元の利用では、**日常生活に関連した課題**を設定し、数学が生活につながっていることを実感させた。

⇒生徒が立体を作成、共有して授業を展開することで、直線と面の関係や切断面の学習で実物に触れながら学習できるようにした。

英：PowerPoint を利用して単語カードや本文の解説をすることで、テンポ良く授業を進めることができた。

その他



- ・**全職員で学力を上げるという意識を高める。**

- ・**1人1研究授業**を行い、指導力向上に努めた。

→指導案作成の際に、教科会を行ったことで、教科内での指導法や教材の共有が図れた。

- ・**月1回家庭学習の日を設定**し、生徒玄関の学習プリントの充実を図った。

・自己評価表の作成やその項目の工夫。⇒授業改善や研修に一丸となって取り組んだ。

- ・各教室にて、**自主学習を充実させるための掲示物。**

【県学力調査・全国学力調査を全教科で活用】

県学調(国・数・英)、全国学調(国・数・理)は教科が限られているが、**各調査後の学習方略・非認知能力の分析**により、**自校で明らかになった課題**を全教科の課題として、各教科での解決策をたて、指導案等に方策を明記しながら実践している。

国：暗唱テストを実施することで、古典の単元以外でも古文に触れる時間をつくることができた。

数：生徒の記入した「ふりかえり」を評価し、授業改善につなげている。